

自動車・同部品・タイヤ

1. 評価対象企業（19 社）

トヨタ紡織、横浜ゴム、ブリヂストン、住友ゴム工業、豊田自動織機、デンソー、日産自動車、いすゞ自動車、トヨタ自動車、日野自動車、三菱自動車工業、NOK、アイシン精機、マツダ、本田技研工業、スズキ、SUBARU、ヤマハ発動機、豊田合成

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法

(1) 評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	4	20
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	8	28
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	5	10
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	4	18
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	4	24
計		25	100

（注）評価項目の内容および配点は 65 頁参照

(2) 評価実施（スコアシート記入）アナリストは 30 名（23 社）である。（66 頁参照）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」（64 頁）参照）

- ① 本年度は、**経営陣の IR 姿勢等**において削除 2 項目、配点変更 2 項目（うち 1 項目は内容も変更）、**説明会等**において削除 1 項目、**フェア・ディスクロージャー**において 2 項目から 1 項目への統合（配点も変更）、**コーポレート・ガバナンス関連**において削除 2 項目、内容変更 2 項目（うち 1 項目は配点も変更）、項目名変更 1 項目、**自主的情報開示**において新設 1 項目、内容変更 2 項目（うち 1 項目は配点も変更）を行い、評価を実施した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 69.9 点（昨年度 66.0 点）となった。また、総合評価点の標準偏差は 6.8 点（昨年度 9.7 点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を比較して見ると、高得点順に、自動車メーカー（10 社：日産自動車、いすゞ自動車、トヨタ自動車、日野自動車、三菱自動車工業、マツダ、本田技研工業、スズキ、SUBARU、ヤマハ発動機）73.1 点（昨年度 71.9 点）、タイヤメーカー（3 社：横浜ゴム、ブリヂストン、住友ゴム工業）67.3 点（昨年度 62.1 点）、自動車部品メーカー（6 社：トヨタ紡織、豊田自動織機、デンソー、NOK、アイシン精機、豊田合成）65.8 点（昨年度 59.3 点）となった。本年度は、自動車メーカーの改善が微増（昨年度比+1.2 点）に留まり、他方、自動車部品メーカー（昨年度比+6.5 点）、タイヤメーカー（昨年度比+5.2 点）がともに改善したことから、自動車メーカーと自動車部品メーカー、タイヤメーカーの差は縮小した。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点/配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 72%（昨年度 64%）、**説明会等**が 71%（昨年度 70%）、**フェア・ディスクロージャー**が 84%（昨年度 83%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が 65%（昨年度 60%）、**自主的情報開示**が 65%（昨年度 53%）となり、全て

の分野で改善した。特に、昨年度に比べ、経営陣の IR 姿勢等が+8 ポイント、自主的情報開示が+12 ポイント改善したものの、後者はコーポレート・ガバナンス関連とともに依然として他の分野に比べ低水準に留まった。

- ④ 評価項目について見ると、フェア・ディスクロージャーおよび説明会等の分野を中心に 6 項目が平均得点率で 80%以上となった。
- (a) 「ホーム・ページに、過去の長期財務データ等、当該企業を分析するために必要な基本的情報・決算説明会の配布資料が十分に掲載されていますか」(平均得点率 98%、得点率：100%17 社・90%1 社・80%1 社)
 - (b) 「四半期ごとに業績動向に関する説明会または電話会議を開催していますか」(平均得点率 95%、得点率：100%18 社)
 - (c) 「業績変動の開示が遅滞なく、かつ公平に行われていますか」(平均得点率 94%、得点率：100%3 社・90%台 16 社)
 - (d) 「経営陣および IR 部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか」(平均得点率 92%、得点率：90%台 17 社・80%台 2 社)
 - (e) 「ホーム・ページや説明会資料等の英語対応がなされていますか」(平均得点率 82%、得点率：100%14 社)
 - (f) 「連結の事業種類別および地域別セグメント情報は、実態を表し分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていますか」(平均得点率 81%、得点率：90%台 1 社・80%台 14 社)
- ⑤ なお、昨年度において平均得点率が 85%と高かった評価項目「経営分析に必要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか」につき、今回その質問に加え、「維持・改善されていますか」と質問を追加し、評価点を 2 点から 4 点に増加したところ、3 社を除き各社とも得点率が低下した。
- ⑥ また、今回、「ホーム・ページ、TDnet 等で有用な情報がタイムリーかつ積極的に開示されていますか」と質問を新設し、評価点を 10 点としたところ、平均得点率は 68%であった。得点率が平均得点率に満たない企業において改善が望まれる。
- ⑦ 一方、次の評価項目は、多くの企業で低い得点率に留まっており、今後、総じて改善が望まれる。
- (a) 「連結中間期の計画ベースの利益増減要因は、実態を表し分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていますか」(平均得点率 40%、得点率：25%4 社・30%4 社・40%台 7 社)
 - (b) 「資本政策(資金調達、資本コスト、グループ持合政策、優先株、金庫株)に関し十分な説明がされていますか。」(平均得点率 59%、得点率：40%台 1 社・50%台 9 社)
 - (c) 「工場見学会、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容は充実していますか。」(平均得点率 59%、得点率：20%台 1 社・30%台 3 社・40%台 2 社・50%台 2 社)

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 SUBARU (ディスクロージャー優良企業 [4 回連続 4 回目]、総合評価点 86.2 点 [昨年度比-1.2 点])

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等(得点率(以下省略) 87%)、説明会等(87%)、コーポレート・ガバナンス関連(81%)が第 1 位、フェア・ディスクロージャーが同得点第 1 位(99%)、自主的情報開示が第 2 位(84%)となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、決算説明会における社長プレゼンテーション、新春懇談会等の豊富な IR イベント等により投資家と積極的に対話する取組みなど、経営陣の IR 姿勢が高く評価された。また、IR 部門への情報集積度が高く、かつ同部門のレスポンスが早い上、アナリストが要望する情報への対応、IR 部門以外の部門への取材アレンジなど、同部門の機能についても高く評価された。さらに、経営分析に必要な情報開示の継続性に配慮しているなど、IR の基本スタンスについても高い評価となった。
- ③ 説明会等においては、プレゼンテーション資料が詳細で分かりやすく、補足資料やデータが充実していること、質疑に対する回答が有意義であることなど、説明会、インタビューにおける開示について高く評価された。また、説明資料等における開示において、各項目とも高い評価となったが、その中でも、全社的に得点率が低水準の「連結中間期の計画ベースの利益増減要因は、実態を表し分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていますか」に関して、第 2 位以下と大差のある極めて高い評価となった。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、その取組姿勢、ホーム・ページにおける情報提供、外国人投資家向け情報提供、説明会のリプレイなど、この分野全体について高く評価された。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分説明していることが評価された。また、中期経営計画において重視する経営指標（営業利益率等）を公表し、その後の進捗状況、達成のための具体的方策を説明していることも評価された。さらに、資本政策および株主還元策の開示についても、高く評価された。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、ホーム・ページ等による有用な情報のタイムリーかつ積極的な開示、E-mailによる有用な情報の適切な提供、統合報告書等の内容が評価された。また、全社的に得点率が低水準の、工場見学会等の実施については、開催した「米国事業説明会」、「試乗および技術説明会」等の内容が充実していたことで高い評価となった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 日産自動車（総合評価点 80.8 点〔昨年度比+1.9 点〕、昨年度第3位）

- ① 同社は、**自主的情報開示**が第1位(88%)、**経営陣のIR姿勢等**(84%)、**コーポレート・ガバナンス関連**(79%)が第2位、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第4位(97%)、**説明会等**が第15位(69%)となった。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、経営陣がIRの重要性を十分認識し、定期的な経営層とのミーティングや各種事業説明会の開催により、投資家とのコミュニケーションを取っている点など、経営陣のIR姿勢が評価された。また、IR部門に十分な情報が集積されていることや、IR部門以外への取材アレンジに協力的であるなど、同部門の機能も評価された。
- ③ **フェア・ディスクロージャー**においては、ホーム・ページにおける情報提供、外国人投資家向け情報提供、説明会のリプレイなど、この分野全体について高く評価された。
- ④ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、中期経営計画において重視する経営指標（営業利益率等）を公表し、その後の進捗状況、達成のための具体的方策を説明していることが高い評価を受けた。さらに、株主還元策の開示についても評価された。
- ⑤ **自主的情報開示**においては、ホーム・ページ等による有用な情報のタイムリーかつ積極的な開示、E-mailによる有用な情報の適切な提供、統合報告書等の内容が評価された。また、全社的に得点率が低水準の、工場見学会の実施については、「中国事業説明会」や「海外拠点見学会」等が充実していたことで高い評価となった。
- ⑥ なお、利益増減要因の項目のくくりの統一など、開示項目の一貫性を望む声があった。

第3位 ヤマハ発動機（総合評価点 77.1 点〔昨年度比+3.8 点〕、昨年度第4位）

- ① 同社は、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第1位(99%)、**説明会等**が第2位(79%)、**経営陣のIR姿勢等**(81%)、**コーポレート・ガバナンス関連**(78%)が第3位、**自主的情報開示**が第11位(63%)となった。昨年度に比べ、全ての分野において改善し、評価項目でも昨年度と比較可能な20項目のうち16項目で得点率が改善し、総合評価点および順位の上昇につながった。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、経営陣がIR活動の重要性を認識し、IRへの協力姿勢が積極的であるなど、経営陣のIR姿勢が評価された。また、IR部門への情報集積度が高くかつアクセスが容易であり、IR部門以外の部門への訪問アレンジなど、同部門の機能についても高く評価された。さらに、経営分析に必要な情報開示の継続性に配慮しているなど、IRの基本スタンスについても高い評価となった。
- ③ **説明会等**においては、短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような説明がなされ、質疑に対する会社側の回答も満足できることなど、説明会、インタビューにおける開示について評価された。また、説明資料等において、連結の事業種類別セグメント情報が、実態を表し分析に有用な形で分かりやすく十分に記載されていることや、原材料の影響について、分析に有用な形で分かりやすく記載されていることなど、説明資料等における開示も評価された。さらに、四半期情報開示についても高い評価となった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、その取組姿勢、ホーム・ページにおける情報提供、外国人投資家向け情報提供、説明会のリプレイなど、この分野全体について高く評価された。

- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分説明していることが評価された。また、中期経営計画において重視する経営指標（営業利益率等）を公表し、その後の進捗状況、達成のための具体的方策を説明していることも評価された。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ 本田技研工業（総合評価点 70.8 点〔昨年度比+8.8 点〕、同得点第 8 位〔昨年度第 12 位〕）

- ① 同社は、昨年度に比べ、**自主的情報開示**が+29 ポイント（第 13 位から第 5 位に）、**フェア・ディスクロージャー**が+6 ポイント（第 7 位から同得点第 1 位に）改善した。
- ② 評価項目では、昨年度と比較可能な 20 項目のうち 13 項目で得点率が改善し、総合評価点および順位の上昇（総合評価点のアップ幅で第 2 位、順位のアップ幅で同点第 1 位）につながった。**自主的情報開示**では、ホームページや E-mail を利用して有用な情報の提供を行ったことが評価された。

○ 豊田合成（総合評価点 67.2 点〔昨年度比+14.7 点〕、第 14 位〔昨年度第 18 位〕）

- ① 同社は、昨年度に比べ、**自主的情報開示**が+30 ポイント（第 17 位から第 10 位に）、**経営陣の IR 姿勢等**が+19 ポイント（第 14 位から同得点第 6 位に）、**コーポレート・ガバナンス関連**が+17 ポイント（第 18 位から同得点第 14 位に）、**説明会等**が+10 ポイント（第 18 位から第 16 位に）改善した。
- ② 評価項目では、昨年度と比較可能な 22 項目のうち 17 項目で得点率が改善し、総合評価点および順位の上昇（総合評価点のアップ幅で第 1 位、順位のアップ幅で同点第 1 位）につながった。

以 上

平成29年度 ディスクロージャー評価比較総括表（自動車・同部品・タイヤ）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	(7270) SUBARU	86.2	17.3	1	24.4	1	9.9	1	14.5	1	20.1	2	1
2	(7201) 日産自動車	80.8	16.7	2	19.2	15	9.7	4	14.2	2	21.0	1	3
3	(7272) ヤマハ発動機	77.1	16.2	3	22.0	2	9.9	1	14.0	3	15.0	11	4
4	(7261) マツダ	75.9	15.1	5	20.2	6	9.5	9	13.0	4	18.1	4	2
5	(7203) トヨタ自動車	71.6	14.2	9	19.3	14	9.6	7	10.0	17	18.5	3	5
6	(7269) スズキ	71.5	13.8	13	19.5	12	9.7	4	11.4	10	17.1	7	7
7	(6902) デンソー	71.0	15.2	4	20.5	4	5.7	18	12.1	7	17.5	6	10
8	(5108) プリヂストン	70.8	14.2	9	19.6	10	7.7	14	12.5	5	16.8	8	11
8	(7267) 本田技研工業	70.8	13.4	15	19.9	7	9.9	1	9.7	18	17.9	5	12
10	(6201) 豊田自動織機	70.5	15.0	6	19.7	9	8.7	10	10.7	14	16.4	9	9
11	(5110) 住友ゴム工業	69.1	13.4	15	21.2	3	9.7	4	11.4	10	13.4	14	8
12	(7211) 三菱自動車工業	68.6	13.0	17	19.8	8	9.6	7	11.8	8	14.4	13	未実施
13	(7202) いすゞ自動車	67.4	14.1	11	20.4	5	8.7	10	12.4	6	11.8	19	6
14	(7282) 豊田合成	67.2	15.0	6	19.1	16	6.8	15	10.7	14	15.6	10	18
15	(7259) アイシン精機	64.2	13.7	14	19.6	10	7.8	13	11.0	12	12.1	17	13
16	(3116) トヨタ紡織	63.1	14.3	8	17.7	18	6.6	16	11.5	9	13.0	15	16
17	(5101) 横浜ゴム	62.0	12.4	19	19.5	12	4.7	19	10.9	13	14.5	12	17
18	(7205) 日野自動車	61.0	12.5	18	18.4	17	8.7	10	8.9	19	12.5	16	15
19	(7240) NOK	58.9	14.0	12	16.4	19	6.2	17	10.3	16	12.0	18	14
	評価対象企業評価平均点	69.87	14.40		19.81		8.36		11.63		15.67		

(注1) 総合評価点が同順位の場合、社名はコード番号順に掲載。

(注2) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は6.8点(昨年度9.7点)であった。

29年度評価項目および配点（自動車・同部品・タイヤ）

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス		配点 (20点)
(1) 経営陣のIR姿勢		
・ 全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどのように評価しますか。（IRの重要性の認識、十分な人員配置、IR部門への権限移譲、情報集積への支援等）		8
(2) IR部門の機能		
① IR部門への十分かつ正確な情報の集積度、アクセスの容易性、IR部門以外へのアレンジ機能は十分ですか。		4
② アナリストが要望する情報提供、担当者との有益なディスカッションの実施、IR改善の努力は十分ですか。		4
(3) IRの基本スタンス		
・ 経営分析に必要なかつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされ、維持・改善されていますか。		4
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示		配点 (28点)
(1) 説明会、インタビューにおける開示		
① 短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。		8
② 質疑に対する会社側の回答は十分満足できるものですか。		8
(2) 説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示		
① 連結の事業種類別および地域別セグメント情報は、実態を表し分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていますか。		2
② 連結の計画ベースの利益増減要因は、実態を表し分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていますか。		2
③ 連結中間期の計画ベースの利益増減要因は、実態を表し分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていますか。		2
④ 原材料の影響について、分析に有用な形で分かりやすく、記載もしくは説明されていますか。		2
(3) 四半期情報開示		
① 四半期ごとに業績動向に関する説明会または電話会議を開催していますか。[開催あり：1点 開催なし：0点]		1
② 四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていますか。		3
3. フェア・ディスクロージャー		配点 (10点)
(1) フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢		
① 経営陣およびIR部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。		2
② 業績変動の開示が遅滞なく、かつ公平に行われていますか。		2
(2) ホーム・ページにおける情報提供		
・ ホーム・ページに、過去の長期財務データ等、当該企業を分析するために必要な基本的情報・決算説明会の配布資料が十分に掲載されていますか。		1
(3) 外国人投資家向け情報提供		
・ ホーム・ページや説明会資料等の英語対応がなされていますか。		2
(4) 説明会のリプレイについて		
・ 説明会のリプレイは、説明会終了後電話やウェブキャストで視聴等ができますか。 [4回すべて視聴できる：3点 2回のみ視聴できる：2点 1回のみ視聴できる：1点 視聴できない：0点]		3
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示		配点 (18点)
(1) コーポレートガバナンス・コード		
・ コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分な説明がなされていますか。		2
(2) 目標とする経営指標等		
・ 中・長期経営計画（例えば、営業利益率、ROE等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。		8
(3) 資本政策、株主還元策の開示		
① 資本政策(資金調達、資本コスト、グループ持合政策、優先株、金庫株)に関し十分な説明がされていますか。		4
② 配当政策・自社株買いなど株主還元策について積極的に、十分に説明していますか。		4
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示		配点 (24点)
① ホーム・ページ、TDnet等で有用な情報(注)(月次情報・四半期情報)がタイムリーかつ積極的に開示されていますか。		10
② 工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容は充実していますか。[過去1年間を目安に評価]		8
③ E-mailを利用して有用な情報の提供を適切に行っていますか。		3
④ 統合報告書、ファクトブック、その他これらに準ずるものの内容は充実していますか。		3
(注) 有用な情報については、【業態】毎に、 【自動車メーカー】：地域別小売台数、輸出台数、生産台数等（月次情報・四半期情報） 【同部品メーカー】：ユーザー別および製品別売上高等（四半期情報） 【タイヤメーカー】：地域別の本数出荷、新車・市販の内訳等（四半期情報）		

自動車・同部品・タイヤ専門部会委員

部 会 長	北山 信次	明治安田アセットマネジメント
部会長代理	箱守 英治	大和証券
	岩井 徹	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
	梶本 将隆	野村証券
	高橋 耕平	UBS 証券
	吉田 有史	シティグループ証券

評価実施アナリスト（30名）

石川 照夫	アセットマネジメント One	杉本 浩一	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
石飛 益徳	エース経済研究所	瀬戸 浩	りそな銀行
板倉 充知	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント	大門 明子	三菱 UFJ 信託銀行
岩井 徹	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	高田 悟	ティー・アイ・ダウリュ
大牧 実慶	立花証券	高橋 耕平	UBS 証券
小掠 剛	岡三証券	田中 健司	アセットマネジメント One
垣内 真司	モルガン・スタンレー MUFG 証券	成瀬 伸弥	岡三証券
加藤 真二	ニッセイ アセット マネジメント	萩原 学	シティグループ証券
北山 信次	明治安田アセットマネジメント	箱守 英治	大和証券
梶本 将隆	野村証券	広川 孝一	JP モルガン・アセット・マネジメント
小西 慶祐	QUICK	持田 浩晃	丸三証券
坂口 大陸	みずほ証券	森山 茂	東京海上アセットマネジメント
坂牧 史郎	大和証券	森脇 崇	みずほ証券
張 影秋	シティグループ証券	八木 啓行	富国生命投資顧問
杉浦 誠司	東海東京調査センター	吉田 有史	シティグループ証券

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。